



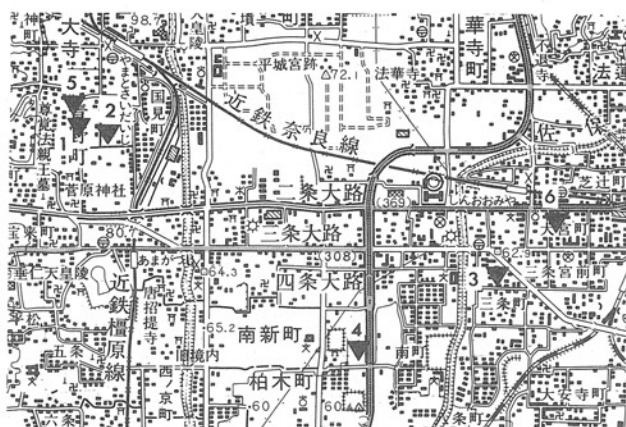
(2)



(1)

(2)は文字の左端が若干残るのみであり判読できない。

(1) 清水康二
和田 萃・鶴見泰寿



奈良・平城京跡

所在地

一・二 奈良市菅原町、三 同市三条栄町、四 同市柏木町、五 同市青野町、六 同市大宮町三丁目

調査期間

一 一九九四年(平6)四月～九月、二 一九九四年六月～一九九五年三月、三 一九九四年一〇月～一二月、四 一九九四年一月～二月、五 一九九四年二月～一九九五年三月、六 一九九五年一月～二月

発掘機関

奈良市教育委員会・奈良市埋蔵文化財調査センター

調査担当者 一 中井公・久保邦江・原田憲二郎、二 中井公・

鐘方正樹・久保邦江・原田憲二郎・久保清子、三
松浦五輪美、四 立石堅志、五 中井 公・原田
憲二郎、六 篠原豊一

5 遺跡の種類 都城跡

6 遺跡の年代 古墳時代～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

一九九四年度、奈良市教育委員会では平城京内において、三二件の発掘調査を実施した。そのうち六件から木簡が出土した。

一 第二九二次調査（平城京右京二条三坊十一坪）

この調査は、近鉄西大寺駅南土地区画整理事業に伴うもので、二カ所の発掘区を設定して実施した。発掘面積は計三三〇〇㎡である。検出遺構には、古墳時代中期の溝一条、奈良時代の掘立柱建物一棟、掘立柱塀二条、井戸五基、平安時代の掘立柱建物三棟、井戸二基、土坑がある。木簡は平安時代の井戸SE五〇七井戸枠内から一点出土した。

二 第三一〇次調査（平城京右京二条三坊三・六坪）

この調査は、近鉄西大寺駅南土地区画整理事業に伴うもので、三カ所の発掘区を設定して実施した。発掘面積は計五一〇〇㎡である。検出遺構には、古墳時代の溝、古墳、奈良時代の三・六坪坪境小路とその両側溝、奈良時代から平安時代にかけての掘立柱塀・建物一五〇棟以上、井戸二五基、土器埋納坑三基などがあるが、現在遺

物整理中であるため、その全容は不明である。木簡は奈良時代前半の井戸SE〇八井戸枠内から二点出土した。

三 第三一四次調査（平城京左京四条三坊十坪）

この調査は共同住宅建設に伴うもので、発掘面積は一一七八㎡ある。

検出遺構には、奈良時代の掘立柱建物四棟、掘立柱塀二条、井戸三基、土坑七基、溝九条と東堀河（SD二六）がある。このSD二六は平城京内で確認された東堀河の北限である。木簡は奈良時代の井戸SE〇七井戸枠内から二点、東堀河（SD二六）から三点出土した。

四 第三一六次調査（平城京左京五条一坊十五坪）

この調査は、住宅展示場造成に伴うもので、発掘面積は三六〇㎡ある。

検出遺構には、奈良時代の東一坊大路とその西側溝、築地、雨落溝、掘立柱建物一棟、土坑がある。木簡は東一坊大路西側溝SD〇二から九点出土した。

五 第三一七次調査（平城京右京二条三坊十坪）

この調査は、近鉄西大寺駅南土地区画整理事業に伴うもので、発掘面積は一一三〇〇㎡である。

検出遺構には、奈良時代の二条条間路とその両側溝、掘立柱建物九棟、掘立柱塀二条、井戸二基がある。木簡は奈良時代の井戸SE五〇一の井戸枠内から二点出土した。

六 第三二〇次調査（平城京左京三条四坊七坪）

この調査は、共同住宅建設に伴うもので、発掘面積は四五〇㎡ある。

検出遺構には、奈良時代の掘立柱建物四棟、井戸一基、土坑がある。木簡は奈良時代の井戸SE〇一の井戸枠内から一点出土した。

8 木簡の釈文・内容

一 第二九二次調査（平城京右京二条三坊十一坪）

井戸SE五〇七

(1) ・「菅原寺」〔曲物底板外面〕

〔菅寺カ〕

・「原」〔曲物側板外面〕

略図132×略図37 061

(1)は、平安時代の井戸枠内から出土した円形曲物容器で、外面の二カ所に墨書がある。底板（厚さ八㎜）外面には「菅原寺」と記す。曲物側板には三文字の墨書（図A・B・C）が等間隔にある。側板の上半を欠損するため「原」以外の二文字はわかりにくい、底板と同じように「菅原寺」と書かれていたものであろう。

二 第三一〇次調査（平城京右京二条三坊三・六坪）

井戸SE〇八

(2) 

091

(3) 

(40)×(6)×(2) 081

(2)(3)ともに奈良時代前半の井戸枠内から出土した。(2)は二文字程度の墨書がある。(3)は板小片に薄く墨書が残る。

三 第三一四次調査（平城京左京四条三坊十坪）

井戸SE〇七

(4) 

(42)×(11)×6 081

(5) 

(80)×(18)×1 081

(4)(5)は奈良時代前半の井戸枠内から出土した。共に墨書らしきものがあるが、削られたためか判読できない。

東堀河SD二六

(6) 背国  水     請   〔請カ〕

239×20×8 032

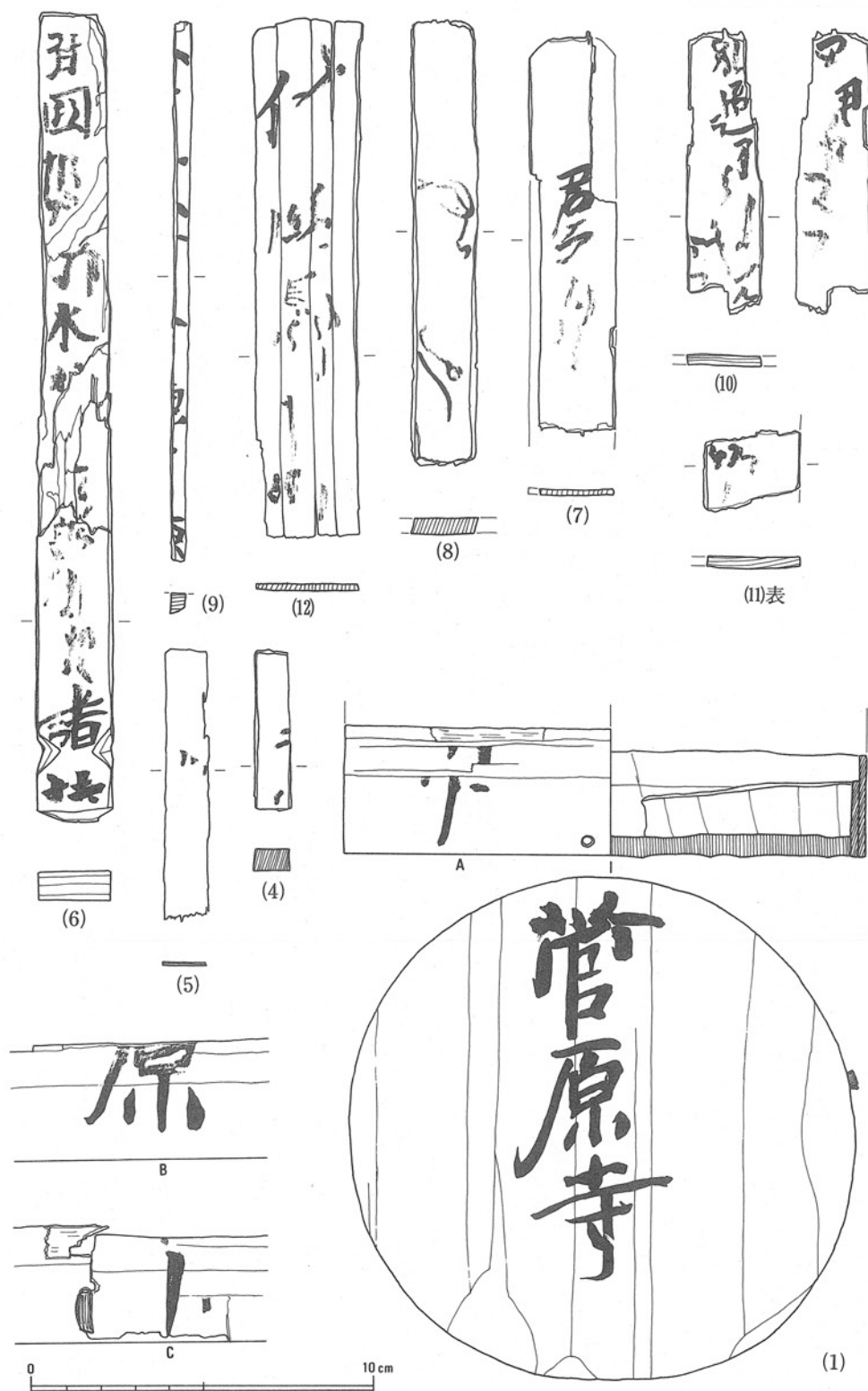
(7) <  君万呂      

(112)×(25)×2 039

(8)       

(130)×(17)×5 081

(6)は付札で山背国相楽郡水泉郷（『和名抄』からのものか。同郷は『続日本紀』宝亀元年十二月乙未条には「出水郷」と見える。上端は二次的切断、下部の切り欠きより下は「請」の文字を習書する。(7)は木簡の中央に「君万呂」と人名が書かれているが、その上下を



判読できないため内容は不明である。(8)は片面に薄い墨書があるが判読できない。

四 第三一六次調査(平城京左京五条一坊十五坪)

東一坊大路西側溝SD011

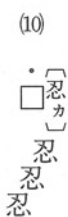


(160)×(6)×7 081

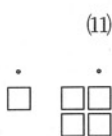
(9)は細長い棒状の一面に墨書が良く残る。判読できないが下の二文字は同じ文字である。西側溝からはこの他に削屑が八点出土したが、いずれも小片で判読できない。

五 第三一七次調査(平城京右京二条三坊十坪)

井戸SEE501



(83)×(26)×3 081



(23)×(28)×3 081

ともに奈良時代後半の井戸枠内から出土した。(10)は表裏に「忍」

を習書したものと考えられる。(11)は片面に四文字、もう一面に一文の墨書があるが判読できない。(10)(11)は材質と調整からみて同一個体の可能性がある。この他に墨書がある独楽が一点出土した。上面と側面に墨書があるが判読できない。

六 第三二〇次調査(平城京左京三条四坊七坪)

井戸SEE01



(152)×(30)×2 081

奈良時代の井戸枠内から出土した。ほぼ四片に割れた薄板の片面に五文字の墨書があるが、判読できない。

9 関係文献

奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成六年度』(一九九五年)

(篠原豊一)